

様式第2号（8関係）

会 議 録

会 議 の 名 称		第43回ひたちなか市公共交通活性化協議会
開 催 日 時		令和7年10月3日（金）14時から15時50分まで
開 催 場 所		ひたちなか市役所第3分庁舎防災会議室1，2
出席者	委 員 （ 者 ） 氏 名	大谷会長，伊藤委員，柿本委員，吉田委員，林委員，遠藤委員，大貫委員，古賀委員，服部委員，梶山委員（代理：齋藤氏），橋本委員，小山委員，西野委員，小松崎委員，井上委員，深谷委員，吉田委員，富川委員，黒澤委員，柳生委員（代理：川嶋氏），佐藤委員，菅原委員，山田委員，三橋オブザーバー，市野オブザーバー
	担当部課職員職氏名	森山企画部長，井上企画部参事，大谷企画調整課長，菅野企画調整課長補佐，櫻井企画調整課技佐，企画調整課岡安主任，企画調整課堀川主任
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公 開 又 は 非 公 開 の 別		1 開会 2 会長挨拶 3 新任委員紹介 （1）協議事項 ①ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂（案）について ②湊線鉄道事業再構築実施計画（案）について ③ひたちなか市地域公共交通計画の策定について（課題の整理について） （2）その他 5 その他 6 閉会
		会議の公開又は非公開の別 公開
非公開の理由 （会議を非公開とした場合）		—
傍 聴 者 の 数		0名
会 議 資 料 の 名 称		—配布資料— 次第 委員名簿及び座席表 協議資料
会 議 録 の 作 成 方 法		要点筆記
そ の 他		委員全33名のうち委任状の提出を含め23名の委員の方が出席し，協議会規約第8条第2項に規定する，2分の1以上の委員の出席があり，会議が成立した。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 新任委員紹介</p> <p>（1）協議事項</p> <p>①ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂（案）について 承認</p> <p>②湊線鉄道事業再構築実施計画（案）について 承認</p> <p>【質疑等】</p> <p>（委員）</p> <p>2点、確認したい。</p> <p>①「みなし上下分離方式」が経営の安定化に寄与するとのことであるが、市の負担額は増加するのか。</p> <p>②延伸によりどのような利用者が増えるを見込んでいるのか。</p> <p>（事務局）</p> <p>①「みなし上下分離方式」とは、鉄道の運営を鉄道会社、施設の管理を自治体が担い、経営の安定化を図るものである。</p> <p>②海浜公園の利用者と、造成中の常陸那珂工業団地の通勤利用者の増加を見込んでいる。</p> <p>（委員）</p> <p>再度確認したい。</p> <p>①市の負担額は増加するという認識でよいか。</p> <p>②観光客や通勤客の利便性向上を見込んでいるとのことであるが、延伸の終点である海浜公園から、例えばバスの利便性を向上させるなど、市内の学校や病院等へのアクセスを改善することは考えていないのか。</p> <p>（事務局）</p> <p>①一部、自治体負担額が増える。</p> <p>②延伸に伴い、新駅に交通結節機能を持たせ、バスやタクシーと連携を図る予定である。</p> <p>（会長）</p> <p>延伸に関しては、今回案として付議している「湊線鉄道事業再構築実施計画」とは別に、国の認可を受けた「湊線延伸基本計画」がある。その中で、延伸により、どのような乗客がどのくらい増えるのか等を試算している。その内容を伝えてほしい。</p>

(事務局)

①湊線が平成 20 年に第三セクター化された当初から、鉄道施設の更新は、国・県・市で補助をしている。「湊線鉄道事業再構築実施計画」は、国が地方鉄道を支援する補助スキームを活用するためのものである。補助スキームに合わせて、微細な施設修繕もするが、その負担は市です。

②計画段階ではあるが、新駅から市内への移動需要を支えるため、コミュニティバスも含めて、新駅へのバスの乗り入れ便数を増やすなど、考えていきたい。

③ひたちなか市地域公共交通計画の策定について（課題の整理について） 承認

計画策定特別小委員会での議論について、委員長である山田委員、及び事務局から説明をした。

【質疑等】

(委員)

①高齢者に焦点を絞り対策をすると、誰に対しても優しい公共交通になるだろうが、アンケートでは 10 代・20 代の回答が少なかったようだ。若い世代からはどのような意見があったのか。

②福祉分野との連携は重要だが、組織や分野が分かれており難しい点もある。課題 5 に対し、どのような取り組みをするのか、茨城県においても今後参考としていきたい。

(事務局)

①若い世代の特徴までは精査できていないが、東京の公共交通と比べて満足度が低い、自動運転の導入など、未来志向の意見があった。

②施策をまとめており、計画策定特別小委員会で議論をしていきたい。

(委員)

①事務局回答へ補足をする。

小委員会でも委員から指摘があったが、JR で市外へ出る市民、特に通学やレジャーが想定される若い世代のデータが十分ではなく、今後の検討課題である。

(会長)

学校関係の委員から、何か意見があればお願いしたい。

(委員)

生徒の通学圏は公共交通でカバーされているが、便数が少なくルートが遠回りであるため、保護者による送迎が多い。アンケート等、協力できることがあれば協力したい。

(委員)

鉄道の利用者は、朝は学生が多いが、日中は閑散としている。

勝田駅、佐和駅ともに利用者はコロナ禍から回復傾向にあるが、コロナ以前には及んでいない。特に定期利用の減少が見られる。

(オブザーバー)

①現計画の成果をどう評価し、今回の課題整理に反映したのか。

②地域ごとの移動実態など、よりミクロな視点での分析も考えてほしい。

(事務局)

①現計画で公共交通網の充実を図っており、既存の資源を有機的につなぎ、使いやすくすることを課題に含んでいる。具体的には、課題1「連携の強化」課題2「スマイルあおぞらバスの最適化」につながっている。

②アンケートとは別に、スマイルあおぞらバス利用実態調査も実施している。利用区間や利用する時間等を調査しており、今後の取組に活かしていきたい。

(委員)

①次回の小委員会では施策を検討するが、現計画の取組を継続していくことと、さらに課題を解決するために何をすれば効果的であるのかを、議論していきたい

②ミクロな視点での分析であるが、本市の場合はスマイルあおぞらバス乗降のデータがあり、今後の取組に活かされるものと思われる。

(会長)

交通事業者の委員から、何か意見があればお願いしたい。

(委員)

バス利用は観光需要や通学利用で回復しているが、通勤利用の戻りが鈍い。運転手不足、運転手の働き方改革により、便数を削らざるを得ない状況である。

路線バスでは、Webでの時刻検索やバスロケーションシステムを導入しているが、デジタルツールを使えない方へどのように情報を届けていくのか、また、コミュニティバスへどのようにサービスを展開していくか、などを検討したい。

(委員)

高齢化や観光客の増加によりタクシー需要は増えているが、乗務員の不足により十分に対応できていない。対策として、一種免許での運行の検討も考えられる。

また、スマイルあおぞらバスは、運賃を値上げし、ルートを増やし、細かいところをカバーすることが必要と感じる。

	<p>(委員)</p> <p>バス停まで歩けない高齢者にとって、ドアツードアの移動を提供できるタクシーの役割は大きい。タクシーは運賃が高く、利用しにくいと感じる場合がある。大洗町や小美玉市では、行政が公費を負担し、利用者が低廉な運賃でタクシーを利用できる制度を実施している。年齢を限定するなど、対象を設定しながら、バス停まで歩けない高齢者を救う方法があるので、検討してほしい。</p> <p>(会長)</p> <p>対象を限定する取組は福祉施策とも考えられる。地域公共交通計画で取り組むべき範囲をどこまでにするのか、その先は福祉施策とどう連携するのか、今後課題となってくると感じている。小委員会で、これまでの本市の経緯も踏まえ、議論をしてほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>タクシー運転手不足への対策として、国土交通省では、2つのライドシェア（日本版ライドシェア、公共ライドシェア）の仕組みを設けている。</p> <p>日本版ライドシェアは、タクシー事業者の管理のもと1種免許のドライバーが運行する仕組みだが、水戸圏央地区のタクシーにおいてすでに導入されており、運転手が不足しているのであれば、その仕組みを活用してほしい。</p> <p>また、公共ライドシェアは、交通空白地で市民が自家用車で輸送する制度であるが、常陸大宮市などで導入をしている。ひたちなか市の実情に合った方法を議論して行ってほしい。</p> <p>(会長)</p> <p>計画策定特別小委員会委員長から、総括をお願いしたい。</p> <p>(委員)</p> <p>新たな提案として、タクシー車両の活用、タクシーが不足していればライドシェアの検討をいただいた。本市の地域特性も考慮する必要があるため、小委員会で検討させてほしい。</p> <p>(2) その他</p> <p>(委員)</p> <p>本日の会議で、延伸事業が現実に向けて大きく前進したものと受けとめている。地域経済やまちづくりの観点から、延伸事業の意義は非常に大きいと認識しており、今後は、これまで以上に延伸事業に投資していきたいと考えている。</p>
--	---

	<p>(会長)</p> <p>湊線の延伸については、行政で国と調整をしてきたが、今後は、各委員のお力添えをいただく局面も出てくると思っている。要望などの機会で、地域の声を一緒に届けていただくことを、想定いただければありがたい。事務局から、今のご提案に関して補足をお願いしたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>事務局としても、今後も適宜ご報告するとともに、今ご提案いただいた内容について、どのような形で実現できるのか、検討をしていきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>スマイルあおぞらバスで那珂湊地区を運行しているが、これから秋の観光シーズンが到来し、渋滞が激しくバスが動かないことが想定される。湊線は、さらにおさかな市場まで延伸してほしい。おさかな市場に湊線でアクセスできれば、渋滞も緩和され、観光客の利便性も向上すると感じる。</p> <p>(事務局)</p> <p>那珂湊地区の渋滞が切実な問題であることは受け止めた。どのような形で対応ができるのか、今後も継続して検討していきたい。</p> <p>(会長)</p> <p>海浜公園とおさかな市場付近での渋滞については、茨城県と連携して実施している実証実験でも明らかになっており、そのような課題に対して、今後とも考えていくという内容として受け止めをしたい。</p>
5	<p>その他</p> <p>(委員)</p> <p>毎年、海浜公園のコキアシーズンには、湊線終点の阿字ヶ浦駅から海浜公園までシャトルバスを運行しており、ぜひ利用してほしい。</p>
6	<p>閉会</p>